

(4) 問題解決的な学習の実際

問題解決的な学習は、発達段階を踏まえ、中・高をつなぐ視点で計画しました。問題解決的な学習の中に、題材を置く形で構成を行いました。

ア 事前意識調査結果による課題の絞り込み

中学校の実践

事前の「家庭生活アンケート」によると、消しゴムなどの文房具を失くすことが多く、その場合、見つかるまで探す生徒は20%でした。また、日常生活で物を無駄にしているという意識は低いことが分かりました。「今、欲しい物」として、8名(25%)が「服・靴など」を挙げており、ファッションへの興味が高まり始めた時期だといえます。そこで、教材に「ファストファッション」を取り上げることにしました。

高校の実践

事前の「家庭生活アンケート」によると、興味・関心が高い食生活や快適に過ごすために必要なことに関しては実践できているが、知識や技能が必要なこと、家族や地域のことを考えなければならぬことに関しては、実践できていない状況であることが分かりました。また、「今、欲しいもの」として約60%の生徒がファッション関係を挙げていたため、ファッション関係を題材として取り上げることにしました。

イ 題材の展開

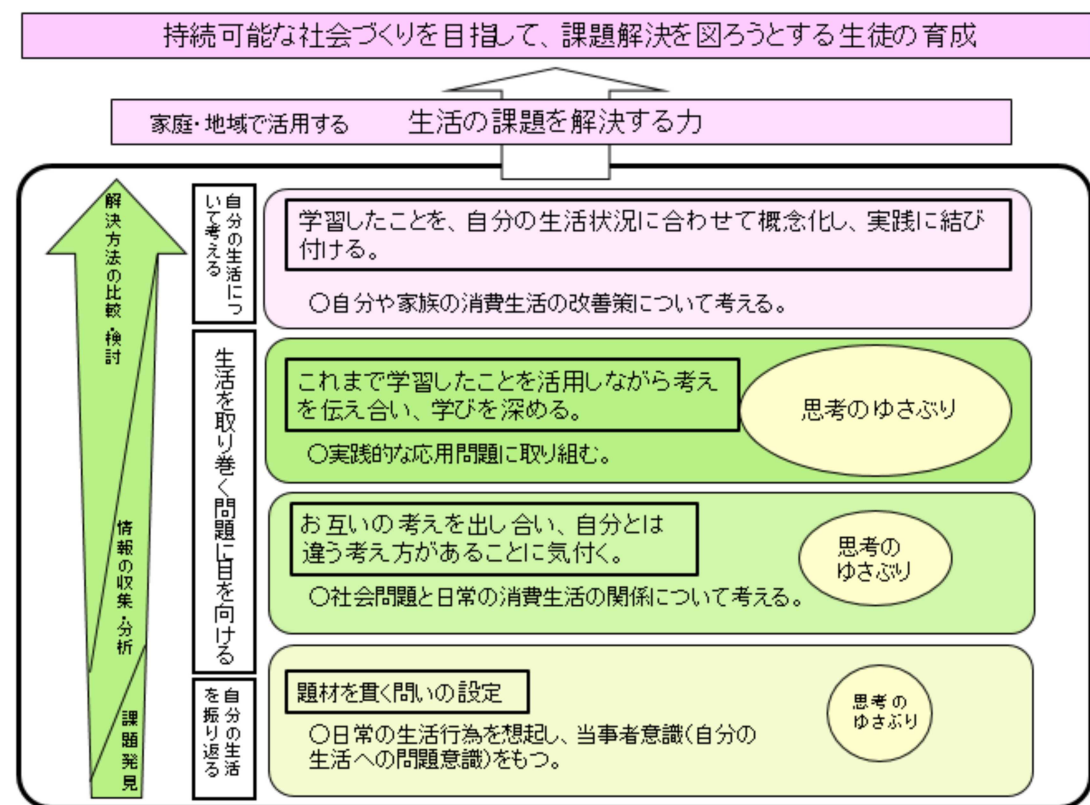


図1 問題解決的な学習の展開

本研究では、自分の生活に目を向ける段階、生活を取り巻く問題に目を向ける段階、自分の生活について考える段階を設定し、問題解決的な学習を通してねらいに迫りました。

自分の生活に目を向ける段階

題材を貫く問いの設定

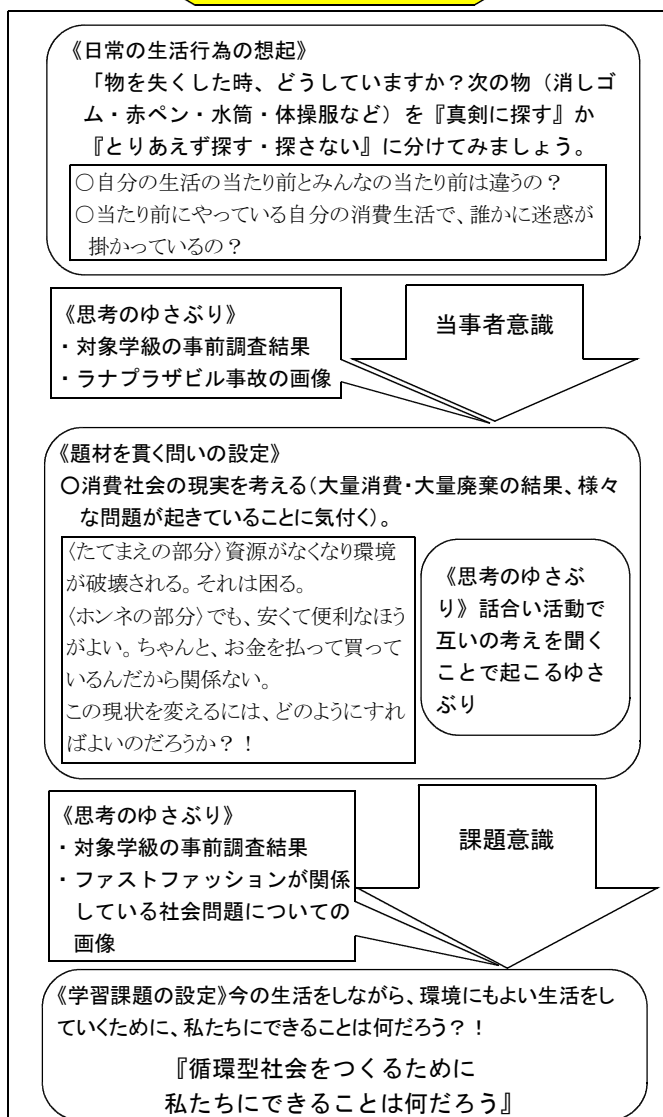
○日常の生活行為を想起し、当事者意識(自分の生活への問題意識)をもつ。

思考の
ゆさぶり

【日常の生活行為を想起させる場面の設定】

問題解決的な学習は、生徒が自分の生活の問題に気付き、それを基に課題を設定する過程が重要になります。本題材では、図2のような流れで課題設定を行いました。まず、最初に生徒自身の消費生活の実態に目を向けさせる場面を設定しました。これにより生じた生徒の問いを教師が引き取り、指導のねらいを加味して課題設定をしました。

中学校の実践



高校の実践

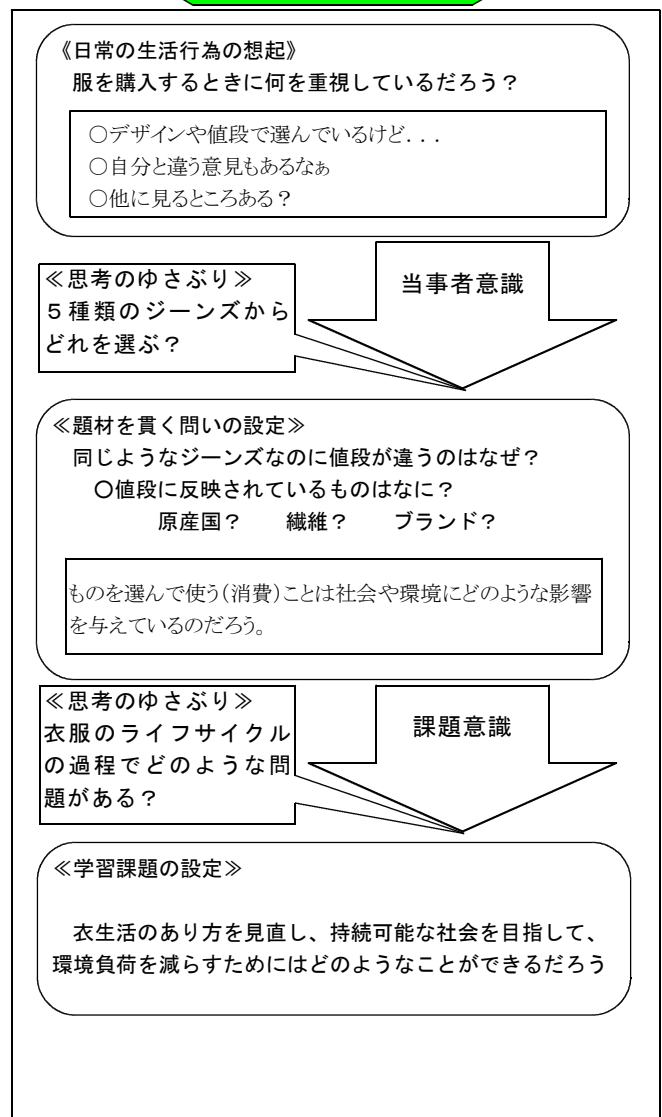


図2 題材を貫く問いと学習課題の設定



生活を取り巻く問題に目を向ける段階

お互いの考えを出し合い、自分とは違う考え方があることに気付く。

思考の
ゆさぶり

○社会問題と日常の消費生活の関係について考える。

【アクティブ・ラーニングの視点(主体的・対話的で深い学び)】

家庭科では、問題解決的な学習や、他者と意見を共有し、互いの考えを深めることを通して協働的な関係を築くような活動、衣食住などの生活における様々な事象やものづくりなどに関する実践的・体験的な学習が重視されています。しかし、ただ形式的な学習で終わってしまう場合が多く、実践に結び付かない状況があります。そこで、生徒の思考をより深めるためにアクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)の視点を取り入れることにしました。

中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」には、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)について次のように書かれています(資料1)。

1) 主体的・対話的で深い学びの実現

(「主体的な学び」の視点)

- ・ 家庭科、技術・家庭科における「主体的な学び」とは、現在及び生涯を見通した生活の課題について、解決の見通しを持ち、課題の発見や解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って、次の学習に主体的に取り組む態度を育む学びである。そのため、学習した内容を実際の生活で生かす場面を設定し、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを認識したり、自分が社会に参画し貢献できる存在であることに気付いたりする活動に取り組むことなどが考えられる。

(「対話的な学び」の視点)

- ・ 「対話的な学び」とは、他者との会話を通して考えを明確にしたり、他者と意見を共有して互いの考えを深めたり、他者と協働したりするなど、自らの考えを広げ深める学びである。なお、技術・家庭科技術分野では、例えば、直接、他者との対話を伴わなくとも、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るといったことなども、自らの考えを広げ深める学びとなる。

(「深い学び」の視点)

- ・ 「深い学び」とは、児童生徒が、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善といった一連の学習活動の中で、「生活の営みに係る見方・考え方」や「技術の見方・考え方」を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学びである。このような学びを通して、生活や技術に関する事実的知識が概念的知識として質的に高まったり、技能の習熟・熟達(定着)が図られたりする。また、このような学びの中で「対話的な学び」や「主体的な学び」を充実させることによって、家庭科、技術・家庭科が目指す思考力・判断力・表現力も豊かなものとなり、生活や技術についての課題を解決する力や、生活や技術を工夫し創造しようとする態度も育まれると考えられる。

資料1 中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」

※ 2017年2月に出された新学習指導要領(案)には「アクティブ・ラーニング」という文言はありませんが、本研究に取り組む段階では、論点整理で「アクティブ・ラーニング」という文言を使っていましたので、本研究では、「アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)」としています。

【協働学習】 中学校の実践

多面的・多角的な見方の育成と学びを深める手立てとして、協働学習を取り入れました。

○話し合う内容を段階的に難しくする

現在の子供は、考えることを面倒くさがり、表現活動を苦手としていると感じます。そこで、段階的に話し合い活動を進めていきました。まず、話し合う内容を徐々に深くしていきました。

1時目：「たくさん作った結果どうなっただろう・たくさん捨てた結果どうなっただろう」

2時目：「どうすれば、ごみ（ごみになるもの）を増やさないですむだろう」

3時目：「あなたは、Aさんの行動をどう思いますか」

○話し合いの方法を、段階的に身に付けさせる

生徒達は自分の考えをワークシートには書くことができますが、それを話すとなると途端に消極的になります。お互いの考えを伝えやすくする方法として、付箋とカラーシールを使用して、段階的に話し合い活動が深まるようにしました（図3）。

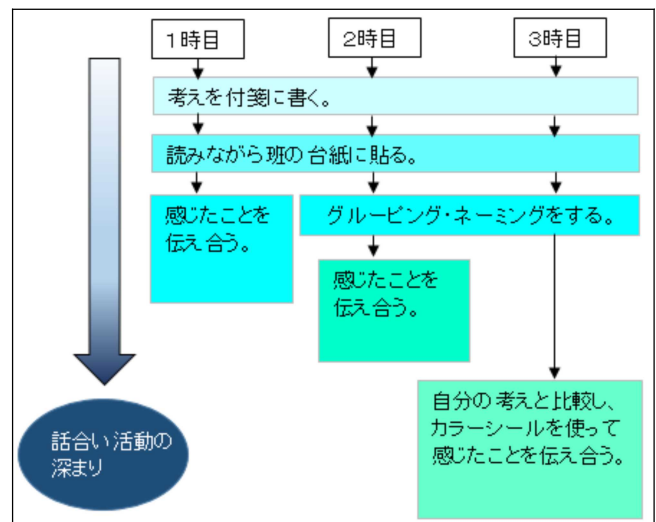


図3 段階的な話し合い活動

【協働学習・思考ツール】 高校の実践

○個の学習から協働学習へと広げ、最後にまた個の学習に戻る

事前意識調査を基に違う意見をもつ生徒が必ず一人は入るようにグルーピングを行い、意図的に他者と意見を共有する場を設定することで、深い学びにつなげることにしました（図4）。他者の意見を知ること、多面的・多角的な見方の育成にもつながり、適切な意思決定や判断力が養われると考えました。

○思考ツールの活用

自分が衣服を選ぶ時の視点を確認させるために「くま手チャート」を使用しました。また、「同じようなジーンズなのに値段が違うのはなぜだろう」という問いに対して、関係する複数の要因を考え整理させるために「フィッシュボーン図」を使用しました。思考ツールを使用することで、意見が可視化され、情報の整理もしやすくなると考えました。

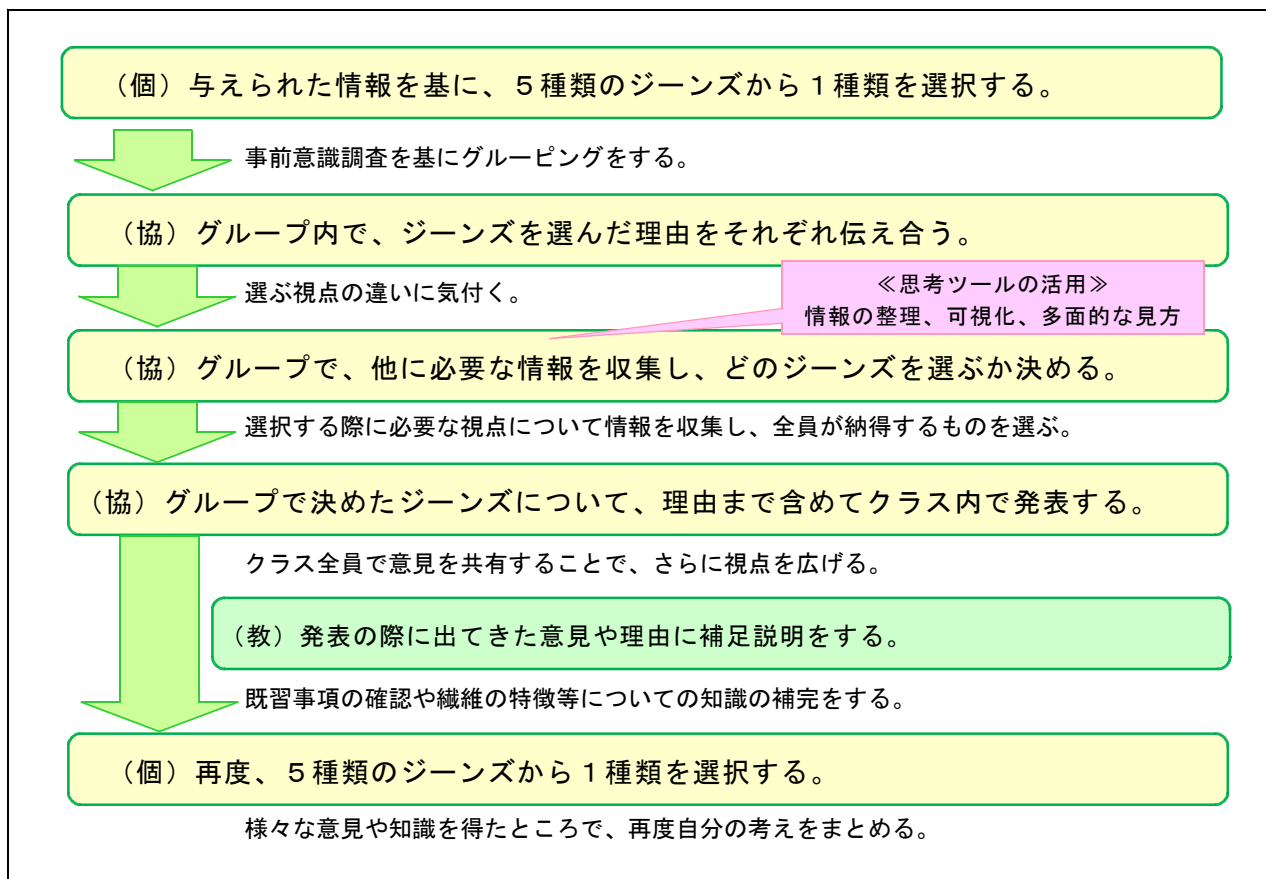


図4 協働学習の流れと思考ツールの活用場面

【授業の振り返りの工夫】 中学校の実践

習得の過程である「第1時目：私たちの消費生活と社会問題」「第2時目：循環型社会と4R」では、授業の振り返りを、「今日学習した内容で、家族にも教えてあげたいことを、3つ以上挙げてみましょう」としました。これにより、自分や自分の家族の生活を想起するきっかけになると考えました。また家庭での話題にすることで、家族からの意見を聞くこともでき、多面的・多角的な見方を育てるのに効果的だと予測しました。

これまで学習したことを活用しながら考えを伝え合い、学びを深める。

○実践的な応用問題に取り組む。

思考のゆさぶり

【実際に起こりやすいと想定される応用問題】 中学校の実践

習得した知識の活用場面で、応用問題に取り組ませました。学習問題は現実には起こりがちな場面設定にし、実際の生活を思い起こさせることにより生徒の本音の部分を引き出し、理想と現実の間で葛藤させることをねらいました。これが自分の生活に引き寄せた学びになると考えました。

自分の生活について考える段階

学習したことを、自分の生活状況に合わせて概念化し、実践に結び付ける。

○自分や家族の消費生活の改善策について考える。

【学習後の実践記録】
中学校の実践

家庭科の教科の特徴は、授業での問題解決的な学習後に、家庭や地域での実践がある点です。一つの題材が終わった後や家庭分野から技術分野に変わった後に、継続して家庭や地域で実践する機会を設けることは、家庭科の教科のねらいに迫る上で重要といえます。より効果的な実践記録ができるよう試みました。

【各家庭での実践例の活用】
中学校の実践

物の使い方についての実践を調査するようにしました。節約術などの本やテレビ番組はありますが、実際に級友が行っている実践例ほど興味をもち実践の動機付けになるものはないと考えます。自分の家庭での状況を改めて見直す機会になることもねらいました。調べてきた結果は、家庭状況や個人情報等に配慮して教師が集計をして提示し、共有化を図りました。

【実践につながりやすい教材の設定】
高校の実践
中学校の実践

教材を衣服の購入場面にし、自分の消費生活と結び付けて考えやすいように設定しました。特に、衣服に関する関心は高いため、すぐに実践意欲につながると考えました。

【衣服のライフサイクルの利用】
高校の実践

衣服のライフサイクルの過程における問題点を挙げることで、自分や家族だけではなく、地域、社会の生活課題まで把握できるため、持続可能な社会づくりを目指した課題の改善策について具体的に考えることができるようにしました。